

氏 名	わんういらていくん すっぱた <b>WANVIRATIKUL SUPPATA</b>
学位(専攻分野)	博 士 ( 学 術 )
学 位 記 番 号	博 甲 第 7 6 3 号
学位授与の日付	平成 27 年 9 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専 攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学 位 論 文 題 目	<b>TRADITIONAL THAI DECORATIVE ORNAMENT: FROM THE PERSPECTIVE OF MOTIF DESIGN</b> (タイの伝統的な文様に関する研究：モチーフの図案化について)
審 査 委 員	(主査)教授 中野仁人 教授 並木誠士 教授 櫛 勝彦 准教授 西村雅信

### 論文内容の要旨

本論文「TRADITIONAL THAI DECORATIVE ORNAMENT: FROM THE PERSPECTIVE OF MOTIF DESIGN タイの伝統的な文様に関する研究：モチーフの図案化について」は、第 1 章から第 6 章により構成されている。

「第 1 章 INTRODUCTION」ではまず本論文の目的を述べ、タイの伝統的な文様に関して、歴史的な変遷の軌跡をたどるとともに、タイ国内の現状のデザイン調査というふたつの手法で進める本論文独自の研究方法を明示している。

「第 2 章 PRELUDE OF LAI THAI」では、本論でとくに取り上げる蓮文様の種類について定義する。『ライタイ』および『クラノック』と呼ばれる文様の形状の特徴や起源について述べている。

「第 3 章 LITERATURE REVIEW」では、タイの蓮文様の起源をエジプト古代文明に見出し、ペルシャ、ギリシア、ビザンティン、アラブ、インド、中国へと伝わりながら変遷をとげた図案化の傾向と特徴について明らかにした。タイでは、こういった分析手法は従来なされてこなかった方法であり、評価に値するものである。また、タイの文様の構成法を分析すると同時に、それらの記号性、意味性について言及している。

「第 4 章 THE SOCIAL SURVEY」では、現在のタイの人々の意識調査を行い、現代におけるタイの古典的文様の現状を報告する。バンコク市内での一般の人を対象にした豊富な量のアンケートと、文様に関する仕事に携わる専門家 3 名への詳細な聞き取り調査を対比させ、現在のタイの文様デザインの問題点を浮かび上がらせた。

「第 5 章 CASE STUDIES」では、現在のタイで、有効に古典的文様を活用して成功した 3 つのプロジェクトを調査し、その要因を検証している。タイの社会状況とデザインの関係性について言及し、産業界におけるタイ文様の有用性を明らかにしている。

これらの検証をもとに「第 6 章 CONCLUSION AND SUGGESTION」では、タイの文様の特質と意味について再検証し、デザインの作り手と需要者の意識についてまとめている。さらにタイの国家としてのアイデンティティの確立のためにも、タイの伝統の価値の認識の重要性を説き、タイスタイルの展開とそのための仕組みづくりを提案している。

以上、本論文は、タイの文様に関する歴史的側面と現状把握に関する綿密な調査分析を積み重ねることにより、その表現と意義の特質を明らかにした論文であり、その成果が今後のタイの文様デザインをめぐる研究に寄与することは明らかである。

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、タイにおいて人々の生活の中で失われつつあるタイの古典的文様に焦点をあて、その価値を見出した上で、現在のデザインに活かす方法を探りながら、タイアイデンティティの確立の重要性を明らかにしようとしたものである。

その研究手法として、二つの側面から進めている。まず第一に古典文様の形成の経緯について明らかにしようと努めている。とくに本論では蓮文様の形状について詳細に分析するにあたり、タイの文様形成の歴史を振り返り、エジプトから出発し、ヨーロッパ、アジアを経て変遷を遂げながらも、タイに到達した段階で、タイの文化性、民族性に合致する意味と表現によってその独自性が確立されたことを指摘している。

第二に、現代のタイの人々の意識調査と、タイを代表するデザイナーやプロジェクトの動向を追跡し、分析を試みている。これにより、現在のタイの文化的状況やデザインが抱える問題を明確にしている。

本研究の特筆すべき点は、このようにタイの文様に関する歴史的検証と、現代のデザインにおける文様の調査分析という史論的研究と実践的研究の両側面を融合させていることである。このことは、本研究者がデザイナーとしての役割を認識した上での展開であり、今後の研究およびデザインの実践の可能性を感じさせるものである。

上記のように、本論文は基礎的な作業を踏まえて、さらに独自の視点からの考察を展開、実践したものとして、十分評価に足るものである。

なお、本論文の一部は、いずれも申請者の単著である査読付の2論文（①②）として、すでに公表されている。

①Suppata WANVIRATIKUL : “THE PASSAGE OF LOTUS ORNAMENT FROM EGYPTIAN TO THAI

A study of origin, metamorphosis, and influence on traditional Thai decorative ornament”  
日本デザイン学会『デザイン学研究』vol 61、no.1、101頁～110頁（2014年）

②Suppata WANVIRATIKUL : “THE DESIGN OF LOTUS ORNAMENT FROM EGYPTIAN TO THAI

A comparative design study of the formation & structure on traditional Thai decorative ornament”

日本デザイン学会『デザイン学研究』vol 62、(印刷中) (2015年)